

最上位モデルの開発思想を踏襲した 強力なスタンダード・シリーズが誕生

オーディオテクニカから発表された待望のハイファイケーブル、FLUAT（フリュエット）シリーズ。昨年にはその第1弾として「FLUAT 700」シリーズが登場したが、この最上位モデルの開発思想を踏襲したスタンダードモデルとして「FLUAT 500」が誕生した。PCUHD（高純度無酸素銅線）と純度 99.99% / 酸素含有量 10ppm 以下の無酸素銅線 HYPER OFC を加えたハイブリッド導体を採用したシリーズで、インターコネクトケーブルと電源ケーブルがラインアップされている。その音質とコストパフォーマンスの高さから、本年度の「オーディオアクセサリ銘機賞」では見事に最高峰の“グランプリ”を獲得している。早速その魅力を福田雅光氏がレポートする。

Audio-Technica

FLUAT 500 Series



Text by

福田雅光

Masamitsu Fukuda

Photo by 田代法生

- RCAインターコネクトケーブル[AT-IC500R]
2mペア=¥28,600 / 1.3mペア=¥26,400 / 0.7mペア=¥24,200
 - XLRインターコネクトケーブル[AT-IC500X]
2mペア=¥31,900 / 1.3mペア=¥29,700 / 0.7mペア=¥27,500
 - 電源ケーブル[AT-AC500]
2m=¥27,500 / 1.3m=¥23,100 / 0.7m=¥19,800
- 取り扱い:(株)オーディオテクニカ



**高純度で抜群の解像力を持つ
2種類の導体のハイブリッド**

オーディオテクニカのケーブル部門は、2021年にフリーユエツト・シリーズをスタート。新世代の設計が開始され、今年5月に中核的な700シリーズが完成。電源ケーブル、インターコネクタ、スピーカーケーブルなどのラインアップを備えた。同シリーズは例えばスピーカーケーブルで約11万円という高級ランクであるため、もう少し手頃な価格の製品もほしと考えていたが、今年秋にスタンダードランクとしてフリーユエツト500シリーズが誕生した。インターコネクタケーブルの「AT・IC500R」、XLRケーブルの「AT・IC500X」、そ



して電源ケーブル「AT・AC500」の3種類である。

このシリーズは上級モデルを含め導体にハイブリッド構造を採用した特徴があり、今回の500シリーズはPCUHD（高純度OFC）導体とHYPER OFC（高純度OFC）の2種類が採用されている。特に導体で注目するのはシリーズでPCUHDを採用していること



RCAプラグはピン内にグラスファイバー配合のPBT樹脂を充填。通電時のピン自体の機械的な振動を抑制させている

RCAインターコネクタケーブル「AT-IC500R」とXLRインターコネクタケーブル「AT-IC500X」。綿糸介在と架橋PE絶縁体に加え、銅テープとHYPER OFC編組の2重シールドを採用。外来ノイズを強力に遮断しS/Nを高めるとともに、シールド片側接地とすることでグラウンドノイズループの影響を軽減させている

ケーブル構造



だ。これは単独で試験実験した経験からすると、ずば抜けて高純度で洗練された解像力を備えている。現在、解像度が高く高級ケーブルで広く使われているPCUHDriples導体の母材である。また、HYPER OFCとはドイツフォーミング製法で作られた導体。銅線を溶融した銅のつぼに通過させ銅をコーティングする特殊な製法を使う。昭和電線が2018年から量産を開始、酸素の含有量が極めて少ない。

**●電源ケーブル
力強さがありコントラストの
はっきりした表現力を持ち味**

ハイブリッド導体は、基本的に

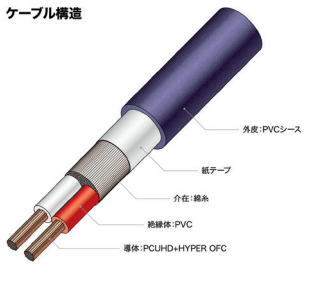


はその種類の性能で決まる要素がありシリーズの性能は興味深い。まず、電源ケーブルは2Pプラグ

のモールド構造である。これは簡易的な印象もあるが、実はそうではなかった。電極を強固な電気特性に優れたポリプロピレン樹脂で固定し、表面のカバーをPVCで仕上げる。モールド型は最近高性能な製品が存在し注目していたがAC500も解像度が高く極めて透明度が高い。力強さがありコントラストのはっきりした表現力で、高音成分の繊細性も濁りがなく質の高い性能で低音から高音まで整っている。導体は2・5スケア2本構成。プラグの極性はNのマー

電源ケーブル「AT-AC500」。綿糸介在や架橋PEの絶縁体を採用。ホット/コールドそれぞれ2.5sqの導体量を確保することで安定した電力供給を実現。独自の樹脂成形プラグを採用し、接点のガタつきやプラグ内部の空洞共振など、音質劣化につながる要因を抑制。すべての接点部に厚金メッキ処理を施す

ケーブル構造



クが上になるような向きで接続する。

**●インターコネクタケーブル
高SN比で格段の透明度で
馬力と立体感ある低域表現**

導体構成はPCUHDとHYPER OFCのハイブリッド導体でRCAタイプもXLRタイプも共通。銅テープと編組シールドによる強化二重シールド構造。RCAはPBTを充填した制振ホットピンを採用。XLRプラグはクロームメッキケースのノイトリック社製である。

RCAケーブルはCDプレーヤーの出力に接続して試験。SN比が高くともすっきりした音質である。明瞭な高解像度基調で、細部のニュアンスがよく見える。中高域では立ち上がるトランジェントに優れているのも印象的だ。ヴォーカルは洗刺としてリアルに定位も明確に構成される。

XLRケーブルはプリ・パワーアンプ間で使うのが最適だ。中高域はピュアに伸び切り、高SN比で透明度の高い音質はRCAケーブルと同系である。パワーアンプでは締めりをきかせ輪郭をはっきり描くところもよい。レスポンスに優れた躍動感、低音は馬力と立体感。低音の力強さは印象に残る。